

コラム

みやちゃん と一緒に体験記

Vol.61

正しく学び・伝えていく人権教育としての性教育

現政権が少数与党となった参議院選挙が7/20に終わりました。現在（7/24）、メディアでは惨敗責任を石破総理がどのように決着をつけるなど選挙絡みのニュースや日本各地で熱中症アラートがだされたという猛暑絡みのニュースばかりが目立ちます。また、少し前に報道された教職員のとんでもない破廉恥ニュースに続き、別件での不祥事ニュースも続々と流され嘆かわしい限りです。小学校・中学校・高校という安全であるはずの神聖な場所で、子どもたちを守り導いてくれるはずの大人が……。

“みやちゃん”こと宮原富士子さんが理事長をつとめるHAPでは、女性の健康支援を目的とした様々な講座やイベントを行っています。そのひとつとして、「包括的性教育」講座を定期的開催（TAYA研究会共催）しています。すでに終了した第1回目講座は5/7、「薬剤師が「学校」「薬局」で実践できる性教育～包括的性教育とは～」（講演者/みやちゃん）でした。

第2回目は、熱戦が繰り広げられた選挙の余韻と猛暑の熱気が漂う7/23の夜、オンライン開催されました。この日は、「SRHR・プレコンセプションケア」というテーマで産婦人科医（宮益坂メリーレディースクリニック院長）の長岡美樹さんが講演されました。

SRHRについては、HAPの過去の講座でとりあげたことがあり、コラムとして公開されていますのでご紹介いたします。

※ Vol.52「あたりまえをすべての人に」 [miyacyan_52.pdf](#)

※ Vol.54「性と生殖に関する健康と権利」再考 [miyacyan_54.pdf](#)

遠い昔の学生時代、性教育について友人たちと話をした際、触れてはいけない領域の話をしているような、あるいはエッチ（当時はこういう表現が流行した!）な話をしていた後ろめ

たさを覚えたものです。学校でも家庭でも教えてくれないので、男女の身体づくりや妊娠の仕組みなどについては無知そのものでした。

この日の長岡先生のお話では、

「日本の未来は女性の生き方にかかっている」

「私のからだは私のもの」

「私の人生は私のもの」

という言葉がとても印象的でした。



性教育とは、単なる「性と生殖に関する教育」ではなく、自分と相手の意思を尊重するという「人権教育」であり、この日の長岡先生のお話を聴いた者として「参考になる」という安易な言葉ではすまされない、大人の役割を深く認識した次第です。産婦人科医である先生の元には、これまで深刻な問題を抱えた多くの女性たちが訪れたことでしょうか。きちんとした知識さえあれば、受診することなどなかっただろうに、という思いをもたれたのではないかと推察します。

日本は性教育について後進国といわれており、中学校の学習指導要領には妊娠の仕組みは取り扱わない「はじめ規定」があります。かわりに家庭で教えているのでしょうか……？

交通ルールをしらずに車を運転すると事故をおこす確率が高くなりますし、加害者となり尊い人命を奪ってしまうかもしれません。性教育についても同じで、何もしなくても子どもたちは、ある時期にくると性行動への関心がどんどん膨らんでいきます。性教育はなるべく早い段階で学校教育の中にとりいれ、子どもたちに正しく理解させる。知識がなければなにも選択することはできません。

妊娠の仕組みをしっていれば望まない妊娠のリスクは回避できるでしょう、性感染症などの病気にかかることもないでしょう。周りの大人たちが卑猥な言動や行動をした場合、迷わず「ノー！」といえることでしょうか。

おそらく多くの大人が、性教育の概念を理解していないはずですが、まずは、大人サイドが認識をかえ、その上できちんと性教育を次世代に伝えていくことが重要なのは言うまでもありません。

今後の「包括的性教育」講座は、次のとおりです。

- 令和7年9/10 「男性医師の性教育」(桜井秀先生/桜井産婦人科医院院長)
- 令和7年11/19 「性教育の実際」
(長岡美樹先生/宮益坂メリーレディースクリニック院長)
- 令和8年3/18 「若者の栄養問題～新型栄養失調～(仮題)」
(武者稚枝子先生/稚枝子おおつきクリニック院長)

* HAP <http://www.hap-fw.org/>